

夢洲の渋滞解消「急務」

大阪府・市の港湾局が統合して発足した大阪港湾局では、新組織として管理部門を一元化して相乗効果を発揮するとともに、人員の増加を生かして物流面の強化に一層取り組んでいくことを目指している。阪神港の国際コンテナ拠点が形成されている大阪港夢洲地区(大阪市此花区)では、ゲート前での海コン車両の渋滞が長年課題となっているが、万博を目前に対策が急務。初代局長に就任した田中利光氏(58)に、夢洲での渋滞対策や集貨に向けた方針について聞いた。

(根来冬太、黒須晃)

——初代局長に就いた。千万人に達し、一つの組織大阪港は人員516人で、としては日本で2番目に多
予算は年間64.8億円程いので、周りからの期待も
度、府営港湾が167人、大きいと考えている。

141億円で、今回の統合 — 統合のメリットは、
により683人、789億 府・市営港湾の背後圏は
円の予算を執行する巨大な 重なる部分が多く、利害関
規模の組織となる。取り扱 係が一致している。連携し
い貨物量も合計で約1億6 てポートセールスを実施で

き、集貨・創貨に向けた一 U (20万コンテナ換算)で、
層の取り組みの推進が可能 府営港湾は3万TEU、2
となる。コンテナ貨物取扱 020年代後半には、それ
量は、大阪港213万TE ぞれ271万TEU、6万

TEUの合計277万TE
Uまで増やすことをマスタ
ープランとしており、本気
で実現を目指していく。

統合し人員が増えたこと
で、人事の再配置をしやす
くなった。組織が一つにな
ること総務、経理にかか
る人員を減らせる分、物流
戦略やポートセールス強化
に充てていきたい。また、
災害時にもトップが1人な
ので素早く決断でき、すぐ
に応援体制を組める。
——夢洲の渋滞対策に取
り組んでいる。

大阪港湾局長 田中 利光氏



たなか・としみつ 1962年1
月生まれ、大阪府出身。大阪大
学大学院工学研究科修了。87年
大阪市港湾局入局、2019年市港
湾局長。20年10月から現職。

一元化で物流強化

25年に万博が開催される
ことも踏まえ、夢洲の渋滞
解消は急務だ。現段階で幾
つか対策を打ち出している
が、まずはIT(情報技術)
を活用した搬出入予約シス
テム「COMPAS(コン
パス)」の導入。23年度内
にはシステムを完成させる
予定で、国とも協力して進
めている。可能であれば、
年度内に阪神港での実証実
験に着手したい。遅くとも
来年度中には実施する。横
浜港での実験では効果が
出しており、期待は大きい。

このほか、万博の期間中
張やターミナルゲートの時
間延長も渋滞緩和につなげ
られる。昨年6月下旬に実
施したG20(20カ国・地域)



さらに、車両待機場の確保。
現時点で夢洲に200台確
保している待機場を、更に
昼間にも開けるなど、対策
を進めている。

このほか、万博の期間中
など、交通量が集中する場
合は咲洲に車両を誘導す
る。夢洲の物流対策につい
ては、大阪府トラック協会
(辻卓史会長)とも議論し
てきた。トラック運送事業
者へも丁寧に説明し、理解
を求めていく。

——神戸港との連携は、
第1ステップとして大阪
湾の組織を統合。第2ステ
ップで神戸港との一体化が
想定される。大阪港湾局の
効果が大きく出てくれば、
兵庫県と神戸市の理解も得
られるのではないかと。今は
協議している段階。実現す
るとしても、まだ時間がか
かるだろう。